

「平成30年7月豪雨」被災地学習支援ボランティア学生派遣

平成30年9月28日

宮城教育大学は、平成30年7月豪雨によって大きな被害を受けた岡山県倉敷市における学習支援ボランティアとして、岡山県教育委員会及び倉敷市教育委員会と連携し、9月3日から9月6日にかけて、学生5名を倉敷市立^や箭田小学校に派遣した。箭田小学校は、被災の著しかった倉敷市真備町の学校で、洪水で校舎が使えなくなり、近隣の倉敷市立玉島小学校と岡山県立玉島高等学校の校舎を間借りして、2学期の授業が始まった。学生は、支援物資の仕分けや児童・生徒の学習を支援する活動に従事すると共に、特技を活かしミニピアノ演奏会を行った。今回派遣された学生の中には、東日本大震災の被災地における多様なボランティアに従事した経験のある参加者もあり、こうした経験を活かしつつ、東日本大震災の際に得た様々な支援に対する恩返し^{おんがし}の思いを持ちながら活動した。

参加した学生からは、「明るく振舞っている子どもたちの中にも、所々水に浸かったと悲しそうに話す場面も見られ、まだまだ心のケアが必要なのだと感じた」、「自分が本当に小学校の先生になりたいのかよく分からなくなる時があったが、今回のボランティアで将来の夢を再確認することができた」などの感想が寄せられた。

また、仙台市の有志から託された玉島小学校への義援金の伝達式も行った。

